



NPO組織への飛躍のために

行田市民大学副理事長 阿部秀二郎

市民大学の運営委員会は今新たな試練に立たされている。8期生を迎えて今後どのように市民大学を運営していくのかが問われているといえる。市民大学は7年の歳月を通じて同窓会組織も充実し、いろんなことを経験しながら多くの人材を輩出し、当初建学の精神であった「学んだことを地域のために生かす」という理念を実践してきました。その結果今では、生涯教育の受け皿としての地位を確立し、地域社会の教育や自然環境の保護などの社会に貢献する活動も行田市内で認知されてきました。

また、市民大学にはすでに地域社会で活躍されている優秀な人材が入学されてきました。それらの方々が、市民大学の運営や同窓会の運営に携わることによって、市民大学全体は、組織的にも能力的にもレベルアップして参りました。

そして、市民大学の運営という範囲を超えて、地域社会に貢献する組織への飛躍が問われてきました。つまり市民大学やその同窓会の運営にとどまらず、その枠を超えて地域社会のために貢献できる組織の確立が問われてきました。それがNPO法人への組織の再編が必要になってきた主な理由です。市民大学の運営を中心軸に置きつつ、地域社会における他の諸問題へもかかわり貢献できる組織の確立が問われてきました。この間、市民大学にかかわっていただいた在校生、卒業生の皆さんのがこの趣旨に賛同され、支援してくださることを期待いたします。

パソコン基礎講習会が実施される！

8月18日（木）行田市民大学の講習が1, 2学年の希望者を対象に中央公民館（みらい）のコンピューター室において実施されました。

この講習は「市民大学のホームページを閲覧できるようになる」が目標であり、キーボードの基礎操作からでした。皆の熱心な学習により、最終的には閲覧の他、投稿も習得できました。



ホームページを開くには： 行田市民大学 と入力する。

……NPO法人行田市民大学 活動センター設立……

6月28日（火）行田市教育委員会2階会議室において、標記NPO法人立ち上げのために設立総会が開催された。正会員28名中24名、協賛会員16名中5名の参加の下に定款、役員及び代表者の選任、事業計画及び活動予算等が審議決定された。

今村武蔵代表（設立発起人）から、「平成21年に行田市民大学を設立以来、大学では多くの事を学び、多くの優れた研究成果を発表してきた。又、大学の外では市民大学在校生と市民大学同窓生によってボランティアで多くの市民活動を進め、長年の夢であり希望であった市民大学の活動拠点を得る努力を行ってきた。この間、絶余曲折もあったが、本日、市民大学のNPO法人化に向けたスタートを切ることが出来たのは感無量である。

NPO法人行田市民大学活動センターは、行田市のために、また、市民のために役立つ活動の実践に努力していきたい。」…と挨拶があった。

今後、今年度中は平成29年4月よりの法人の活動を本格的に実施するため、NPO法人化の申請ならびに詳細な活動計画の立案や約束事等の整備を進めることになる。

講義より…「忍城主はなぜ江戸幕府に重用されたか」

7月28日（木）1学年対象に市郷土博物館の「鈴木紀三雄」先生による副題の～「老中の城」の成立と変貌～としての話で興味深い内容だった。

秀吉の命令で関東を治めることになった徳川家康が、忍城を四男の松平忠吉に与えたことにより忍藩が成立。このとき忠吉は11歳。戦乱後の城の修復と治安維持のための暫定措置で家臣の松平家忠が最初に入城した。この家忠は「家忠日記」を残している。天正

18年（1590年）8月29日に家忠は忍へ到着し城を受け取っている。更に天正20年2月19日、忍城を忠吉の家臣が引き渡された。以後、家康や子の秀忠等は度々忍で鷹狩りを行っている。幕府の重要な地である忍に、寛永10年（1633年）智恵伊豆こと松平信綱が忍城主になり、幕府老中にも就任。寛永16年に阿部家（忠秋）が忍藩の藩主に就任して以降、9人の内5人の老中を輩出、幕政に当たった。以降忍藩大名の老中は江戸城の溜間詰めとして重用された。しかし、幕末には諸外国が来たことで世襲にも影響があった。

關都別忍藩領村数・石高（元文2年 1737年）
武藏國埼玉郡 56村 57, 894石余
足立郡 5村 3, 882石余
大里郡 6村 7, 169石余
鶴ヶ島郡 4村 817石余
秩父郡 22村 11, 685石余
武藏國合計 101村 81, 449石余
相模國 川辺郡 51村 10, 406石余
豊島郡 22村 4, 742石余
朝下郡 9村 3, 583石余
武藏國合計 85村 20, 000石余
合計 101, 449石余